

児童健全育成賞（数納賞）佳作

母親クラブと仕事とを通しての 私と子ども達との関わり

広島県呉市

広島県阿賀地域活動連絡協議会 会長 高橋 はるひ

昭和53年、大坪谷児童館の設立と共に、地域のお母さん達の協力のもと運営していきたいということで、児童館を拠点としての呉市大坪谷母親クラブが発足しました。今年(平成27年)で発足37年となり、この9月から38年目に入りました。

私が母親クラブに関わったのは、私の息子達2人が小学校に入学したのを機に、子どもの為に地域のお母さん方と交流したいという思いで昭和58年に母親クラブに入りました。

あれから32年、地元の役員から呉市の会長そして県の会長に携わってきました。現在は呉市の会長は3年に1回、そして主に地元の会長として18年続けています。この長い間には、色々な制度が変わり、子ども達をとりまく社会環境も大きく変わってきました。

母親クラブは全国組織なので、まず、名称変更がありました。母親クラブから地域活動連絡協議会に変えて下さいということで、正式名称は広島県呉市大坪谷地域活動連絡協議会となりました。これは母親だけでなく、父親でも、若い人でも誰でも入れるようにということで変えたのだと思っています。

ここで考えなければならなかったのは、発足当時は大坪谷児童館を拠点としていたので、大坪谷母親クラブだったのですが、活動拠点が阿賀地域にも大きく広がっていたので、地元の名前も変える必要があるということになりました。会則の変更、市役所への書類提出などを経て広

島県呉市阿賀地域活動連絡協議会という正式名称になりました。時代に合ったようにと名称にも変化がありました。しかし長い間、地域の活動をするにあたって、母親クラブという名を使ってきたので、正式な書類には、阿賀地域活動連絡協議会を使いますが、地域で活動する時には長い間をかけて浸透してきた阿賀母親クラブという俗称を使っています。私としては個人的に、母親のような母性を持って活動しようということで、この名前を使うようにしています。

また、一番大きく変わったのが、子ども達をとりまく社会環境でした。初期の段階では、学校での児童会という放課後指導の制度はなかったですし、土曜は半休ということもあり、学校が終わってからの時間を児童館で過ごす子が多く、母親クラブの活動も活発で期待もされていたように思います。

児童健全育成のための企画として、親子社会見学、親子陶芸教室、親子スポーツ大会等々行いました。社会見学では、広島県人として平和資料館へ行き平和教育をしたり、時にはレジャーランドで親同志、子ども同志の交流を深めたり、血液センターを見学して、献血の大切さを学びました。陶芸教室では親と子が違う物を作ってそれぞれ楽しんでものです。またスポーツ大会では、ドッジボールや長なわとび、フットベースボールなどを定期的に行いました。親子行事といっても、子どもさんの参加の場合、我々母親クラブのメンバー

が親として加わっていました。

しかし最近では、安全面やプライバシーの問題などで、子どもを連れて校区外で行事をしたり社会見学をすることが難しくなってきました。児童公園にしても、多くの子ども達が遊んでいた時代もあり、定期的に公園の安全点検も行っていました。今では危険な遊具は撤去され、利用者もシニア世代が多くなりました。少子社会の影響でしょうか、また子ども達の自由な時間が少なくなったのでしょうか、子どもを大切に安全にという傾向により自由に行事ができなくなりました。

私の思いとしては、自由に伸び伸びと、少々怪我をしても危険を察知する能力、痛みのわかる子ども達であって欲しいなと思っはいるのですが、筋力の弱さがいわれているこの頃、幼少期の色々な経験、体験の少なさが少なからずとも影響しているのかなと思います。

この様に、母親クラブの無償のボランティアとしての活動に変化が生じました。そして今現在、親子行事として行っている活動は、陶芸教室、あひる座さんによる人形劇の鑑賞、また今年から児童館祭りと名前を変えましたが、老人会、子ども達、お母さん方の三世代交流会を続けています。三世代交流会では、我々母親クラブはぜんざいをたいています。手作りのぜんざいは、私はとても好きで、昔を懐かしく思い出しながらいただいています。子ども達も手作りのぜんざいを楽しみに毎年参加している子もいます。ある時、小学生の子どもさんをもっている学校の先生に、活動の話をしたら「とてもいいことですね。うちの子もだけ今の子どもさんは、手作りのぜんざいはなかなか食べられないし、うらやましいです。いい活動をされていますね」と言ってもらえました。嬉しかったです。

また、あひる座さんによる人形劇は、先日も行ったのですが、終了後の反省会でいつも話題になるのは、いつの時代も子どもの人形劇を見る目はキラキラしているということ。また幼稚園の子ども達は、人形劇の世界に入りこんで、人形と一生懸命会話をし、一緒に驚いたり、悲

しんだり、注意したり、助けたりと感情を素直に出している姿は、とても素敵だなと思ってみえています。この素直な感情を持ち続けて欲しいなと願っています。この素敵な時間を作ってください、あひる座さんは、母親クラブが発足した翌年から来ていただいているので、36年間続けて来てくださっていることになります。メンバーの交代はあったものの、リーダーはずっと変わらず活動され、来ていただいています。これだけ続けていることは凄いことですね。

それから陶芸教室も同じ位の年月続いています。ただ残念なことは、今回来ていただいている先生は3代目になります。初めの先生、2代目の先生は亡くなられたのです。悲しいことですが、前の先生方の思いも継いで、今もお願いし、続けてもらっています。子ども達も自分の作品を自分の創造力で、思い思い楽しそうに作っています。その姿を見ていると、今までずっと続けてきたかいがあるなど毎回思います。

どの行事も母親クラブの児童健全育成という趣旨に賛同してもらい、ほぼボランティアでずっと続けてもらっています。やはり持続できているということは、子どもはいつの時代も求めるものは同じだし、いつの時代もニーズに答えていっていかねばいけません。先生方の熱意が伝わって必要とされているのでしょうか。その架け橋として私達母親クラブがお手伝いできていることを喜ばしく誇りに思います。

また母親クラブ活動の柱の一つとして、児童の交通安全を見守るということがあります。何をすればいいかなということで、当時、警察に知り合いがいたので署へ行って相談してみました。知り合いの警官に趣旨を説明したところ、街頭キャンペーンに参加してもらえないかということでした。年4回交通安全テント村といって街頭キャンペーンを行っているの、ドライバーの方に交通安全を願ってマスコット人形を作って配ってもらえないかというお話を受けました。それから年4回の街頭キャンペーンに参加協力をし、秋のキャンペーンの時にマスコット人形を作って配ることにしました。フェルトで毎回違っ

たマスコット人形を200個作り、神社で交通安全の祈禱をしていただき、街頭キャンペーンの時にドライバーに一声かけ、人形を配ることをしています。この活動で、警察、呉市、また交通安全協会から表彰を受けました。なにより地元神社でお祓いを受けるたびに、いい活動をされていますねと云ってくださるのが嬉しいです。この活動も30年近く続けています。マスコット人形を200個作るための、会員さん達の努力、協力には頭がさがります。何度も集まり、地域の話話を話しながら、手を動かしてどんどん作り上げていく姿は凄いと思います。また、話の中で地域の子どもの情報交換もでき、いい活動だなとつくづく思っています。

またこのフェルトのマスコット人形は、阿賀ふれあいセンターで行う、今昔ふれあい大会の時に、母親クラブとしてマスコット人形作りというコーナーを設けてもらって参加しています。今昔ふれあい大会というのは、阿賀地域の大きな行事で、子ども会、女性会、老人会、民生委員の方々と一緒に行っています。母親クラブは参加して20年近くになります。今では、高校生の食物バザー、体協、児童民生委員など新しく団体も加わり、とても大きな行事になっています。

私達のコーナーでは、マスコット人形を作り上げるという企画をしています。フェルトを切ったりといった下準備は母親クラブで行い、あとは来場者にまわりを糸で縫ってもらい、中に綿を入れて、可愛い形にして仕上げするというものです。このように「創作する」という企画をはじめからずっと続けていて、今では根付いています。地域の大きな行事に参加するということで、母親クラブという組織の活動を広報することも兼ねています。

この人形作りは、針を持って縫うということを見せているのですが、針に糸を通すという作業から始めます。小学生が多いのですが、コツをつかめばスムーズに糸を通し、また縫うことも上手に出来るようになります。小学校に入って6年間、毎年作るのを楽しみにしているという参加してくれた男の子がいます。また、お父

さんお母さんと一緒に来て皆で作っている家族もいます。最近、時にはお父さんが必死になって一生懸命作っている姿が見受けられます。一人一人個性的な人形を作っているのですが、中には私達より上手といった子もいます。でも、どの子も自分だけの人形ができた喜びで、出来たアーと嬉しそうな声が上がります。今年の人形は何かと毎年楽しみにしているといった子や出来上がった作品を家に持って帰って飾っているんですよ、といった親御さんの声を聞くととってもやりがいを感じます。

針使いということは、なかなかしなくなった日常で、針を使うということは、大丈夫かな？危険ではないかな？と思ったのですが、やはり何事も経験させてみないとわからないし、痛みも経験すれば、自分で危機管理（大げさですが）ができるのではないかと思います。ずっと続けています。ただ、私達母親クラブでは、安全を一番に考えて出来る限りの注意を払っています。初めての子にはマンツーマンで教えています。

このような地域の行事として、校区の中学校、小学校での研修会に参加をしたり、また運動会や発表会の見学をさせてもらい、地域の子どもの様子を実際に見て、そして母親クラブの役員会で意見交換をして、子ども達を見守るようにしています。

以上のように、地域で行っている母親クラブの行事は、ずっと長く続いています。

母親クラブに携わって32年、母親クラブの全国大会、ブロック大会に何度も行かせていただきました。色々な研修を受け、他県との交流も行いました。県によって組織の違いはありますが、参考になることが多々あり、見習うべき点はできるだけ取り入れるようにしました。私が県の副会長の時に、広島県母親クラブは15周年を迎えました。そこで15周年記念行事として、呉市において記念式典と記念行事として全児連の協力も得て、映画鑑賞を行いました。映画評論家を招いて講演会後「風の谷のナウシカ」を上映し、子ども達にとっても好評でした。また県の会長にも携わり、1996年母親クラブの全国大会にて個

人表彰を受けることができました。

ただ現実として、今の阿賀母親クラブを考えてみた時、新しく入ってくる人はいません。以前は若い人が入ったこともあったのですが、人間関係のことでしょうか、途中で投げだしてしまいました。今頃は社会の変化でしょうか、若いお母さん方の時間の使い方の違いでしょうか、なかなか無償の母親クラブに入ってくる人はいません。

児童健全育成を掲げてきた母親クラブですが、今ここにきて世の中は育児支援を主に考え行政の仕事となっている傾向にあります。育児・子育て支援に関する行事も多く、大々的に行われるようになりました。呉市で行われる“チャイルドフェスタ”という行事も、はじめ私達母親クラブが中心となって企画、運営をしていましたが、今は行政が行うようになってきて、私達母親クラブは活動報告をパネルで展示することをしていきます。

社会の流れにそって、母親クラブでも子育て支援サークルを、児童館、児童民生委員、保育園と共に発足させたのですが、発足から16年、今ではボランティアが大勢まわりを取りまき、親子連れが一組といった状態もあることを聞き、それでは子どもが萎縮するし、お母さんも構えてしまうのではないかという提案をしました。利用者が少ないなら少ないなりの対応の仕方を考えなくては、今まで通りでなく状況に応じて対策をしなくてはと思います。また、行政の行なう大きな行事に協力できることは協力して、我々は今まで行ってきた経験、体験を生かして、必要とされることを頑張っていきたいと思うようになりました。

子育て支援を言われるようになった頃から社会の変化を感じざるをえません。昔は3才までは母親のもとでじっくり子育てをし、社会に徐々にふれさせ集団になじませる、というのが本来の姿かなと思っていました。ただ、いつの時代も、生活の為に働かなければならないので、小さい時から保育所に預けるといった家庭もありますが、これは必然的なことです。今では、女

性の社会への進出ということが根底にあるのでしょう。仕事をするのは自分のポリシーとして続けていく、子どもができたら、産休、育休の後、子どもを預けて仕事に復帰するという考えが多くなったように思います。そこで、子育て支援活動が必要となってきているのかなと思います。子どもがお母さんといる間は色々な悩みができて、ストレスがたまることもあるわけで、核家族社会となっている今、そういうお母さん方をサポートしていく機関が必要となっています。

子どもを預かって、お母さん方に自由な時間をもってもらう。できるだけストレスをなくしてもらおう。時には親子で一緒に遊ぶように場所を作ってあげる。社会全体で子育てを支援していこうという社会になっています。

ここにきて、今、私達母親クラブは何をすればいいのだろうと考え悩むことがあります。ただ単に、長い間続けている行事を行い続けるだけでいいのだろうか。地域の子ども達に声かけをするだけでいいのだろうか。地域のためになっているのだろうか、と立ち止まって考える事があります。

自分の子ども達はもう自立しているし、私も会員さん達も高齢化してきているし、もう必要とされていないのではないかと考えてしまうことがあります。

しかし、人形劇を見ている時のあのキラキラした目や姿。陶芸で一生懸命、自分なりの作品を作っている姿。また、マスコット人形を一針一針、一生懸命縫っている姿を思い出す時、少しでも役に立っているのかなと思いつける毎日です。

私は地元の会長を18年間続けているわけですが、会員さん達から得ることが多々あります。多くは人生の先輩ですので、色々和生活していく面で参考になる点、為になる面が多く、色んなことを教えていただいています。

母親クラブを通して、私自身成長できたところが多いにあると思います。子どもが小学生になった時に母親クラブに入り、今では子どもも自立しているのですが、ずっと携わり続けら

れているのはどうしてだろうと考えることがあります。結論としては、子どもが好きという私の母性であり、性分ではないかと思っています。それから素晴らしい仲間と一緒に何かを成し上げていくということに喜びを感じるのです。

その原点として、子どもの頃の生活環境と私の仕事に関係があるのかなと思います。

私の父は、私が中学生の時に病死しました。その後、父親のように働いていた母に代わって弟達の面倒を見るようになりました。その面倒を見るという気持ちは、自然とわきおこるものでした。弟が結婚した時に、お嫁さんが「おねえさんにとてもお世話になったと言ってましたよ」と言われた時、色んな苦勞が報われたし、とても嬉しかったものです。

高校を卒業し、当時家計を助けるために、授業料がいらなかった県立の保育の専門学校に行きました。動機としては、単純に2年間学生生活を送らせてもらえて、遊ばせてもらえるということで入りました。

ところが、その2年間で考えが変わったのです。授業の中に実習科目があり、養護施設、肢体不自由児施設、知的障害児施設などに行き実習体験をしました。

そこで出会った様々なハンディキャップをもった子ども達、こんなにもたくさん、色々な状況を抱えた子ども達がいるのかと驚きました。それと同時に、私には何ができるのだろう、少しでも子ども達の力になれないかな、また、この子達の笑顔がいつもみられるようになったらいいのにといい気持ちが素直に出てきました。入学当時の甘い考えがふっとびました。その時の思い、使命感は今でも忘れません。

卒業して、市の保育士として働くことになりました。市採用なので、異動がありました。乳児保育所、幼児保育所など、4ヶ所をまわりました。地域によって色々な違いもあり、様々な子ども達の所で働きました。

当時は、体験と知識を生かして保育に励みました。後で思ったのですが、それにプラス経験も必要などころもあったのではないかと、母親に

なってから出来ること、また母親でないから出来たことってあるものだなと思いました。

その経験から、私個人の考えにより、子どもができた時、3歳までは自分自身の手で育て、幼稚園に入れ、少しずつ社会に慣れさせていこうと思い実践しました。

子ども達が小学校に入った時、私自身は母親クラブに入り、地域の方々にもふれ合う場を作ったわけです。また、この間にはPTAの役員をして親の立場というものを大いに経験させてもらいました。

そうして、子どもが中学生になった時に市の方から、臨時で働いてもらえないかと声がかかりました。それは市の公共図書館からでした。仕事に就くかどうか、私にとっての分岐点でした。地域に関わっていたものの、もっと広い社会に進出して色々な体験や経験を積んでいってもいいかなと思い、仕事をすることにしました。そして臨時職員として10年、仕事とボランティアと両方続けました。

図書館での仕事も、子どもと接することが多くありました。子どもコーナーでは、熱心に本を読んでいる子、子どもに読み聞かせをしてお母さん。本を通して親の姿の必要性を感じました。ある時、図書館をよく利用している子が、文集に「図書館に行ったら、必ず、本を読むのえらいねと声かけをしてくださる方がいて、とても嬉しいです」と書いてくれました。私のことだと思った時、嬉しいと同時に子どもへの声かけの大事さをつくづく感じました。

10年経ったときに、今度は高校の図書室に勤めてくれないかという話がきました。と同時に児童館の厚生員も頼まれ、さらに母親クラブの会長の話もこの時期にきたのです。私にとっては必要とされている喜びと同時にどの道を進んでいけばいいのか、大いに悩みました。結論として、母親クラブでは地元の会長としてボランティアを続け、仕事は高校に行き、児童だけではなく高校生にも携わってみようと思いました。

そうして今度は高校教育を垣間見ることになりました。図書室での仕事はもちろんのこと、

何よりも高校生との会話、先生方との会話が楽しく意義あるものでした。

しかし、はじめに思ったのは生活習慣のことでした。掃除の時間、箒を持っての掃き方、雑巾の絞り方、拭き方がわからないのです。教えるとすぐに覚えてきちんとできるのです。やらない、出来ないのではなく、知らないのです。生活習慣を教えることが少なくなってきました。掃除だけではなく、机に平気で座る、それを先生が見ても何も言わない。いけないということがわからないのでしょうか。私は図書の勉強もしましたが、躰もしてきました。このことが、幼時からの教育や躰の必要性を教えてくださいました。

高校教育も17年の間に、変化してきました。ゆとり教育から元にもどっての教育。また、携帯、スマホの時代になり、友達同士の会話が同じ場所にいてもそれらを使うことに替わってしまったりしました。次第に学校への持ち込みは禁止になりましたが、携帯にしても、学習面においても、基本的な生活習慣にしても時代と共に変わってきました。

図書に関しても辞典、辞書から電子辞書へ。広辞苑の引き方を聞いてくる子が多くなったのは驚きでした。書籍というものに、いかに興味をもたせるか、字に親しませるかという問題を抱えていました。必要な本を選んで購入するのはもちろん、生徒にいかにして図書室に来てもらえるか、本を手にとってもらえるかが課題で、生徒の相談ごとと共に本来の仕事にも苦労しました。

授業の一環として、新書を読もう、また新聞のコラムを読もうということがあったのですが、「新書ってどれですか」「新聞のコラムってどこにあるのですか」という質問を多くされました。ネット社会の影響なののでしょうか、高校にも教育環境の変化が押しよせてきているように思えました。

本を読むのもネット、いろんな検索もネット、実物の本や辞書を使って考えることが難しくなってきました。そんな中、読書が大好きな子が必ずいました。現代小説だけでなく、昔からの文学小説、研究資料など読破して、色々話し

てくれたりする子を見ていると、小さい頃からの習慣なのだろうなどと、とても嬉しく思いました。

そして高校生の悩みはいつの時代も同じ、家庭の事、自分の進路、将来の事、成績に関係のない私には素直に相談してくる子が多くいました。そんな時私ができることは、まずしっかりと聞いてあげる。聞く力をつけることだと思いました。高校生にしても先生方にしても、話すことで解決することがあるのです。私にできることは、ただしっかりと聞くことなのです。悩む人は答えを自分で出さないといけないとわかっているのです。ただ聞いてもらう人が欲しいのです。

このことが、長い間仕事をしてきてつくづく思ったことです。このことは子ども達にもいえることだと思います。人形劇を見ている時、必死で人形に話しかけています。そのことばに耳を傾けて、受けとって返してあげる。そうすると安心して嬉しそうにします。

私は仕事とボランティアを通して得たことは聞くということの大事さ、大切さです。

先生達と話をしたり、生徒と話をしたり、相談を受けたり、悩みを聞いたりということが、とても有意義でした。

話の中で私も得ることがたくさんあったし、励まされたこともありました。また仕事を通して母親クラブに役立てたり、ボランティアを先生方に紹介して、高校生に母親クラブの活動を手伝ってもらったこともあります。ボランティアを通して世代間の交流をもちました。

その仕事も、今年3月で定年を迎えました。これからも仕事を通しての経験、体験を生かして今まで通り、地域の子ども達に接していけばいいかなと思っています。

地元の保育園や小学校から行事への参加依頼がきていますので、できる限り参加して、今の子ども達の現状を見て、クラブの人達と話し合いをし、どんなことをすればいいのかと考え続けています。

最近は小学校の参観日に行かせてもらいました。少人数で一人一人いき届いた授業をし、ま

た親と一緒にあった授業もあり、なかなか良い傾向だと思って帰りました。それと小中一貫教育についての研修会にも参加させてもらい、横のつながりの教育、縦のつながりの教育と両方の必要性を感じました。

このようにして、現状、現実をとり入れ、母親クラブとしての活動に生かしていこうと思います。

私は今までの人生、仕事においても、ボランティアにおいても、子どもに関するものでした。思い返してみると、保育の専門学校時代、保育実習での子ども達との衝撃的な出会いから始まったものでしょう。しかし自分から求めてきたわけではなく、頼まれて望まれて歩んできた道です。これは私の本来のあるべき姿だったのかな、私に与えられた役目だったのだらうと思っています。そして今までの経験が、私を育ててくれたのだとも思います。

母親クラブに入って38年。そして仕事に関しては、子どもを育てて中学に入るまでの間、一旦身を引いていたのですが、保育所時代、図書館時代、そして高校の図書館時代と30年近く働いていました。

仕事を卒業した今、一区切りとしてもう一度母親クラブに関して考えてみました。

私が今まで歩んできた道を思った時、子育てに関していえば、環境の変化、社会の変化によって昔の私の時代と今の若いお母さん達との考えに違いはあると思います。でも子どもは変わりません。生まれた時は無垢で純粋でいるのです。この子達を素直に育てていくのは親の役目、母親の役目、そして今や社会の中で大切にされています。親の力だけでなく、社会の力で育てていかなければいけない時代になっています。

そこで私達母親クラブとして今まで通りでいいのか、どのように関わっていけばいいのか課題となります。それと同時に、私自身の問題でもあるのですが高齢化ということ。今や高齢化社会という社会現象があります。自分の行く道だと思うので、私自身考え続けていかなければならないと思います。

母親クラブを存続させるためにも、皆さんが

元気でなければいけません。私自身も健康に気をつけ元気でいなければなりません。子ども達のため、家族のため、健康でないと何もできないとつくづく思っている毎日です。

健康が第一。そのために趣味としてテニスをしています。短時間ですが、毎日コンスタントに続けています。ボケない為の3原則を何かで聞いたのですが、「声をだす」「太陽を浴びる」「指を動かす」ということ。以前はコーラス、テニス、ギターとボケない為の3つを行っていたのですが、今はテニスしかしていないので、あとは一人で声を出し、指運動をしてボケない努力をしています。

でも精神的に一番の力になっているのは、友達です。母親クラブの仲間、同級生、テニスの仲間、仕事の仲間と、窮地に陥った時、また病気になる時、声かけをしてくれたり、そっと見守ってくれた友達です。子どもにしても、大人にしても、見守ってくれる人がいるということが、一番の力になります。

たくさんの友達がいたおかげで救われたことも多く、話を聞いてもらってストレス解消もできてきました。こういう仲間、家族、友達のおかげで、仕事もボランティアも続けてこられたのだと思います。

経験は宝です。これからも自分が良いと思うこと、自己満足できる生活を送っていこうと思います。

学校の新聞にモットーとして載せたのですが、「一生勉強・一生青春」このことばが大好きです。

今まで本当に素晴らしい人達に恵まれて母親クラブの会長をやってきて良かったと思いますし、私に与えられた役目だと思っています。仕事には定年がありましたが、母親クラブには定年がありません。地域に必要とされないなど感じたら引きたいと思います。

それまで、30名の母親クラブの会員さんの健康を願いながら、地域のために努力していこうと思っています。

子ども達の幸せを願って。